

鷹島町住民の健康調査：健康指標の地域・年齢および生活行動特性

吉川，和利
九州大学健康科学センター

川崎，晃一
九州大学健康科学センター

萩原，仁
Takashima-cho Clinic

松本，寿吉
九州大学健康科学センター

<https://doi.org/10.15017/463>

出版情報：健康科学. 8, pp.113-124, 1986-03. Institute of Health Science, Kyushu University
バージョン：
権利関係：

研究資料

鷹島町住民の健康調査

—健康指標の地域・年齢および生活行動特性—

吉川 和利* 川崎 晃一* 萩原 仁**
松本 寿吉*

Health Investigation on Residents in Takashima

—Characteristics of Region, Age and Mode of Life on Health Indices—

Kazutoshi KIKKAWA*, Terukazu KAWASAKI*, Hitoshi HAGIWARA**,
Jukichi MATSUMOTO*

1. はじめに

鷹島町は海からの遠近度、交通手段、職業別就業者数、学校や公共機関との距離などによって町内にまた地域特性があり、これは住民の生活構造や時間とは無関係でなく、同時にこれらが相俟って種々の心身の状況や病態とも関連していると考えられる。若年層の島外への転出等による過疎化と高齢化社会への移行は労働生活、構造さらには住民の種々の生活意識に少なからぬ影響を与えているとみなすこともできよう¹⁰⁾。

本稿では、鷹島町の老・壮年群についての生活構造・時間の特性、食事・休養・労働・運動の概要を明らかにするとともに、重要な身体健康指標である血圧値、体格測定値の地域的特性、年齢変化などを分析し、離島における住民の身体特性について明らかにすることを目的としたものである。

したがって、当初は住民3,558名のうち40歳以上の住民の悉皆調査を予定したが、測定・調査が多岐にわたったこと、留め置き法による回収率が低かったことなどの理由により40歳(昭和59年4月に40歳となる者を含む)以上の母集団(1,715名)についての準悉皆調査と考えておきたい。

II. 対象ならびに方法

1) 分析の対象者：本報で報告する地域別、年齢区

分別、性別の対象者は表1のようになる。即ち男子全体で645名、女子全体で897名の総計1,542名について分析する。

地区数は計12にのぼるが、30歳代、80歳代では対象者数がゼロとなる地区もある。

2) 測定指標：① 体格：身長、体重については一般的な方法で町立診療所において保健婦・看護婦が測定した。また体充実度指数(Quetelet指数, Body Mass Index, BMI)を算出した。② 血圧：昭和59年1月から約3か月の間に随時血圧(収縮期および拡張期)を3回水銀血圧計により、保健婦が測定した。また収縮期血圧と拡張期血圧の差、脈圧を算出した。③ 健康度調査：福岡県商工会¹⁾による質問紙を用い、身体の状態および心理的状況の回答結果それぞれを総和し「からだ」の健康指数、「こころ」の健康指数として測度化した。

3) 生活行動についての調査：質問紙の留置き調査法により、食生活・生活時間・労働の構造等々について調査を行った。

4) データ整理：データは磁気テープから大型コンピュータの大記憶に入力し、九州大学大型計算機センターにおいてプログラムパッケージ(SPSS)を利用して分析した。

* Institute of Health Science, Kyushu University 11. Kasuga 816, Japan

** Takashima-cho Clinic. Kitamatsuura-gun, 859-43, Japan.

表一 地域別・年齢別区分別の対象者数

年齢区分 地域	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	計
阿 翁	0	14	20	14	8	4	60
神 崎	0	21	18	17	10	1	67
阿 翁 浦	2	47	50	51	21	4	175
原	0	9	18	12	7	7	53
殿ノ浦	2	16	6	8	9	3	44
船 唐 津	0	16	22	16	12	6	72
里	1	11	10	16	6	2	46
黒 島	0	14	20	14	8	4	60
中 通	1	26	28	25	13	12	105
日 比	1	8	10	5	3	2	29
三 里	0	17	30	21	15	4	87
石 川	1	12	8	13	4	2	40
計	9	234	254	220	128	52	897

男子
女子

Ⅲ. 結果と考察

1. 地域特性について

体格、血圧、健康度指数の地域特性を探るために、12の地区を要因として各測定値について一元配置の分散分析 (ONEWAY ANALYSIS OF VARIANCE, ANOVA) を行った。またこの場合の F 値が有意である ($P < 0.05$) 場合に群間における有意差検定を行った。これは Duncan's multiple range test (多重範囲検定) によるものである。

以下いずれも数値の小なるものから昇順に地区別に並べたものを表-2・A, B~表-10・A, Bとして男女別に示す。分散分析の自由度は群間が11, 個体間がほぼ男子633, 女子885となっている。

i) 体格について

身長 (表-2・A, B) は男子では平均160.30 cm, 標準偏差 (SD) 6.48 cm が全体について得られ、女

子では 147.92 ± 6.01 cm となった。男子の F 値は1.69, 女子では1.69となり、いずれも地区間には有意な差は認められなかった。

体重 (表-3・A, B) は男子 59.16 ± 8.84 kg, 女子 51.16 ± 8.04 kg となり, ANOVA の結果, 女子では地区間差は認められず, 男子では地区間差が有意となった ($P < 0.05$)。日比地区が55.93 kgであるのに対し, 最大値を示す殿ノ浦地区64.36 kgとなり, 8.43 kgの平均値の差が得られている。

体充実度は体重(kg)/身長(cm)×100で得られるが, 男子では $F=2.577$ ($P < 0.01$) で有意となり, 女子では地区間差は有意とならなかった (表-4・A, B)。

一般的に体充実度は栄養摂取量と作業量の関数とみなしてよいものであろうが, 男子について地区間差が顕著であったことは興味深く, 里地区21.81, 殿ノ浦地区24.57と2.76の指数差が得られた。体充実度が

表一・A (男子 身長)

Group	Mean	SD	Duncan's Test
神崎	158.09	6.11	
石川	159.23	6.39	
日比	159.50	5.36	
船唐津	159.54	5.94	
阿翁	159.74	6.86	
三里	159.94	7.53	
阿翁浦	160.22	6.29	
里	161.14	6.25	
黒島	161.24	5.89	
殿ノ浦	161.54	7.04	
中通	161.69	6.56	
原	162.47	7.05	
全体	160.30	6.48	

F=1.14 N.S.

表一・B (女子 身長)

Group	Mean	SD	Duncan's Test
原	145.96	6.05	
三里	146.33	5.21	
神崎	146.43	5.46	
日比	146.93	5.98	
黒島	147.21	6.70	
船津浦	147.49	6.67	
阿翁	148.27	6.21	
阿翁浦	148.52	5.66	
石川	148.82	5.50	
里	149.00	6.24	
殿ノ浦	149.33	5.88	
中通	149.40	6.03	
全体	147.92	6.01	

F=1.69 N.S.

表二・A (男子 体重)

Group	Mean	SD	Duncan's Test
日比	55.93	6.43	
里	56.69	7.01	
神崎	57.82	7.73	
船唐津	57.95	8.16	
阿翁浦	58.53	8.96	
三里	58.75	8.27	
中通	59.08	8.58	
阿翁	59.74	10.17	
原	60.47	8.39	
石川	60.69	8.74	
黒島	61.38	8.88	
殿ノ浦	64.36	10.30	
全体	59.16	8.84	

F=2.15 p<.05

表二・B (女子 体重)

Group	Mean	SD	Duncan's Test
原	48.02	6.18	
三里	49.92	6.58	
神崎	50.55	7.83	
黒島	50.78	7.74	
里	50.80	7.85	
殿ノ浦	50.90	8.25	
船唐津	51.04	9.41	
石川	51.20	7.53	
阿翁浦	51.68	8.50	
日比	51.86	9.11	
阿翁	52.34	7.54	
中通	52.35	8.61	
全体	51.16	8.04	

F=1.49 N.S.

表一4・A (男子 体充实度)

Group	Mean	SD	Duncan's Test
里	21.81	2.26	
日比	21.96	2.05	
中通	22.56	2.71	
船唐津	22.72	2.62	
阿翁浦	22.76	2.98	
原	22.88	2.73	
三里	22.98	2.68	
神崎	23.09	2.45	
阿翁	23.39	3.14	
黒島	23.53	2.53	
石川	23.88	2.69	
殿ノ浦	24.57	2.76	
全体	22.99	2.80	

$F=2.577 \quad p<.01$

表一5・A (男子 収縮期血圧)

Group	Mean	SD	Duncan's Test
殿ノ浦	127.33	17.99	
原	132.32	17.99	
日比	136.11	26.01	
阿翁浦	140.14	24.33	
里	142.29	30.65	
黒島	147.39	29.11	
中通	148.31	25.84	
阿翁	150.30	26.19	
三里	150.31	26.57	
神崎	150.71	31.67	
石川	150.95	26.29	
船唐津	152.63	27.54	
全体	145.05	27.03	

$F=4.085 \quad p<.001$

表一4・B (女子 体充实度)

Group	Mean	SD	Duncan's Test
原	22.50	2.33	
殿ノ浦	22.80	3.30	
里	22.91	3.12	
石川	23.21	3.12	
三里	23.36	2.84	
黒島	23.39	3.09	
船唐津	23.40	3.57	
中通	23.42	3.45	
阿翁浦	23.45	3.42	
神崎	23.52	2.88	
阿翁	23.87	3.27	
日比	24.24	3.27	
全体	23.39	3.22	

$F=1.016 \quad N. S.$

表一5・B (女子 収縮期血圧)

Group	Mean	SD	Duncan's Test
殿ノ浦	131.53	25.21	
日比	140.60	23.77	
阿翁浦	140.78	24.56	
里	141.09	27.31	
黒島	141.55	21.38	
神崎	143.19	31.15	
原	143.42	29.59	
石川	143.84	24.57	
中通	146.16	26.32	
三里	148.21	26.85	
阿翁	151.01	25.03	
船唐津	152.92	24.42	
全体	144.56	26.25	

$F=3.14 \quad p<.001$

表一六・A (男子 拡張期血圧)

Group	Mean	SD	Duncan's Test
殿ノ浦	74.83	11.23	
日比	78.67	14.09	
里	79.32	14.01	
原	81.93	13.02	
三里	82.43	14.69	
阿翁浦	85.86	14.34	
石川	86.19	12.72	
黒島	87.08	14.66	
船唐津	87.18	15.62	
中通	88.41	17.05	
神崎	88.73	18.93	
阿翁	90.87	13.82	
全体	85.57	15.38	

$F=4.34 \quad p<.001$

表一七・A (男子 脈圧)

Group	Mean	SD	Duncan's Test
原	50.39	18.13	
殿ノ浦	52.51	18.97	
阿翁浦	54.28	15.94	
日比	57.44	18.00	
阿翁	54.92	18.80	
中通	59.90	18.41	
黒島	60.31	20.10	
神崎	61.98	17.82	
里	62.96	27.54	
石川	64.76	22.30	
船唐津	65.45	19.94	
三里	67.88	21.45	
全体	59.47	19.71	

$F=3.937 \quad p<.001$

表一六・B (女子 拡張期血圧)

Group	Mean	SD	Duncan's Test
殿ノ浦	75.59	11.39	
原	80.80	13.28	
日比	82.91	9.04	
里	83.88	14.46	
石川	83.94	12.11	
阿翁浦	84.20	12.99	
黒島	84.30	12.52	
神崎	85.08	16.65	
中通	85.85	18.07	
三里	86.71	16.31	
船唐津	87.10	13.03	
阿翁	88.92	14.72	
全体	84.88	14.63	

$F=3.356 \quad p<.001$

表一七・B (女子 脈圧)

Group	Mean	SD	Duncan's Test
殿ノ浦	55.94	19.07	
阿翁浦	56.58	16.05	
里	57.21	17.12	
黒島	57.26	17.53	
日比	57.70	20.60	
神崎	58.10	20.96	
石川	59.90	17.62	
中通	60.31	17.40	
三里	61.50	18.05	
阿翁	62.38	18.99	
原	62.62	25.73	
船唐津	65.82	18.69	
全体	59.71	18.71	

$F=1.993 \quad p<.05$

表-8・A (男子 からだ指数)

Group	Mean	SD	Duncan's Test
船唐津	37.28	11.16	
原	37.69	9.14	
阿翁	37.71	8.92	
石川	38.15	9.40	
阿翁浦	38.81	8.18	
三里	39.05	8.58	
黒島	39.22	9.17	
神崎	39.96	7.07	
里	40.06	7.57	
殿ノ浦	40.12	4.82	
中通	41.25	4.40	
日比	42.47	4.12	
全体	39.15	8.06	

F=1.392 N. S.

表-9・A (男子 ころろ指数)

Group	Mean	SD	Duncan's Test
里	17.31	4.05	
石川	17.52	4.33	
阿翁浦	17.53	4.02	
阿翁	17.99	3.58	
神崎	18.02	3.42	
殿ノ浦	18.03	2.54	
船唐津	18.22	3.57	
原	18.26	2.58	
中通	18.46	3.08	
三里	18.65	3.29	
黒島	18.66	3.46	
日比	19.27	2.25	
全体	18.05	3.53	

F=0.982 N. S.

表-8・B (女子 からだ指数)

Group	Mean	SD	Duncan's Test
殿ノ浦	39.84	4.53	
阿翁浦	37.51	8.53	
里	38.00	9.41	
黒島	38.82	9.05	
日比	38.90	5.47	
神崎	39.09	5.31	
石川	37.14	7.68	
中通	37.14	10.62	
三里	36.67	8.37	
原	38.50	9.19	
船唐津	37.29	7.72	
全体	37.79	8.41	

F=0.807 N. S.

表-9・B (女子 ころろ指数)

Group	Mean	SD	Duncan's Test
石川	16.57	5.32	
中通	17.21	4.56	
阿翁浦	17.28	4.52	
三里	17.48	4.52	
黒島	17.58	4.47	
阿翁	17.87	3.89	
船唐津	17.94	3.66	
里	18.05	3.91	
殿ノ浦	18.23	2.32	
日比	18.45	2.64	
原	18.70	2.96	
神崎	18.89	3.89	
全体	17.74	4.06	

F=1.609 N. S.

表一10・A (男子 総合健康指数)

Group	Mean	SD	Duncan's Test
船唐津	54.10	16.78	
石川	55.00	14.32	
阿翁	55.24	12.99	
原	55.38	12.98	
阿翁浦	55.96	12.44	
黒島	56.86	14.13	
里	57.36	11.01	
三里	57.39	12.23	
神崎	57.67	10.61	
殿ノ浦	58.15	6.78	
中通	59.72	6.79	
日比	61.73	5.98	
全体	56.79	11.96	

F=1.163 N.S.

表一10・B (女子 総合健康指数)

Group	Mean	SD	Duncan's Test
中通	53.69	15.61	
石川	53.70	12.51	
三里	53.94	13.27	
阿翁浦	54.59	12.87	
船唐津	54.68	11.88	
阿翁	55.01	12.33	
里	55.64	13.54	
黒島	56.10	13.58	
原	56.48	13.39	
日比	57.34	7.13	
神崎	57.98	7.30	
殿ノ浦	58.07	6.10	
全体	55.23	12.51	

F=0.976 N.S.

大きい殿ノ浦、石川、黒島はいずれも漁業を主体とし、石材業を中心とした阿翁地区とともに一群を形成することになった。Duncan testの結果、3群に分割されることになる。

ii) 随時血圧について

随時血圧は水銀血圧計により熟練した鷹島町保健婦一名が測定した収縮期、拡張期それぞれの平均値をいうものであり脈圧は両者間の差をいう。

収縮期血圧 (SBP) は男子、女子ともに地区間差が有意となり ($P < 0.05$)、Duncan testの結果では男子が3群に大別でき、女子は2群に大別できた。表一5・A、Bにこの結果を示すが、男子では全体の平均とSDは145.05±27.03、女子では、144.56±26.25 mmHgであった。

Duncan testの結果は男子が3群に、女子が2群になることが示された。男子、女子に共通している点は殿ノ浦・日比・阿翁浦など漁港をもつ地区において収縮期血圧が小さいという点である。ただし、同じ漁港をもつ地区でも船唐津は男女とも地区内で最大の値を示した。

拡張期血圧 (DBP) は男女とも地区間差が有意 ($P < 0.01$) であり、Duncan testの結果、男女とも3群に大別できることになった (表一6)。男子での最小値は殿ノ浦地区の74.83 mmHg、最大値は阿翁地区の90.87 mmHgであり、全体の平均は85.57、SD 15.38 mmHgとなった。女子では男子と同様に殿ノ浦地区が最小値 (77.59±11.39 mmHg) を示し、阿翁地区が最大値 (88.92±14.72 mmHg) を示した。特に興味深いのは、拡張期血圧が低いのは殿ノ浦、日比、原、里、阿翁浦などの地区であり、これは男女の性差を越えて共通して認められる点である。家族間、夫婦間の類似度・職業間差など興味深い課題が残されることになる。

脈圧については表一7・A、Bのような結果が得られた。男子では全体の平均とSDは59.47±19.71 mmHg、女子では同様に65.82±18.69 mmHgとなり、男子では $P < 0.001$ 水準、女子では $P < 0.05$ 水準で地区間差が有意となった。

Duncan testによると男子では3群に大別でき、女子は2群に大別できた。脈圧も拡張期血圧と同様に殿ノ浦・阿翁浦など漁港をもつ地区が小さいが、ただし、原地区のように男子では値が小さく、女子では大きいなど男女差が顕著である場合や、船唐津のように漁港を有しながら大きな値を示す地区がある点など一貫した傾向は見出せない。

iii) 健康度質問票について

健康度質問票は附表のように、「からだ」に関するもの16項目、「こころ」に関するもの7項目からなり、各項目とも「はい」(あてはまる)を1、「どちらともいえない」を2、「いいえ」(あてはまらない)を3として、それらの単純総和を「からだ」、「こころ」の指数とした。したがって、「からだ」指数の満点は

48点,「こころ」指数の満点は21点となり,両者の総合指数(総合点)は59点となる。

「からだ」指数は全体が男子で平均39.15,標準偏差8.06,女子が37.79±8.41となった。地区間差は男女とも有意なものではなく,地域間の男女類似性も認められない(表-8・A, B)。

「こころ」指数は全体で男子18.05±3.53,女子17.74±4.06(平均値±標準偏差)となり,地区間差は有意なものではない(表-9・A, B)。

同様の「総合的健康」指数も男子56.79±11.96,

女子55.23±12.51となり,地区間差は有意とはならなかった(表-10・A, B)。

なお,地域内順位相関係数を男女間で,求めたところ収縮期血圧の0.762を最高に表-11のようにになっていた。負の相関は「からだ」指数について男女間にとめられた。

2. 年齢特性について

図-1から図-8までは鷹島町全体について男女別に求めた体格,血圧,健康調査票の指数の平均値を年齢ごとに表わしたものである。つまり,鷹島町の昭和

表-11 地域内男女間の相関係数

身長	体重	BMI	収縮期血圧	拡張期血圧	脈 圧	からだ指数	こころ指数	総合指数
0.224	-0.229	-0.245	0.762	0.403	0.301	-0.629	0.140	0.329

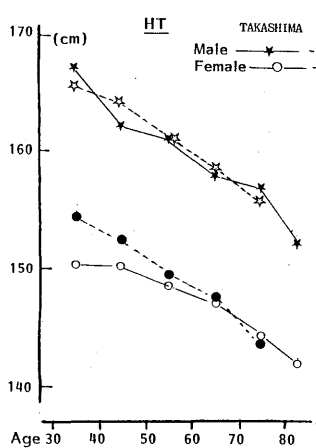


Fig. 1 Standing Height

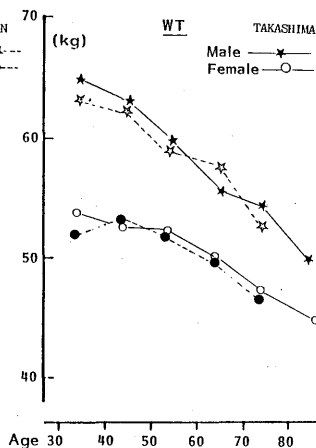


Fig. 2 Body Weight

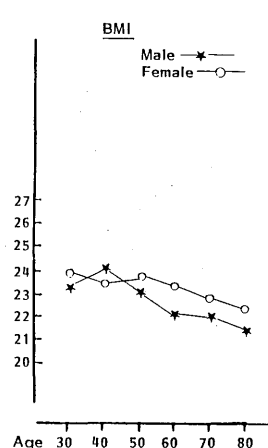


Fig. 3 Body Mass Index

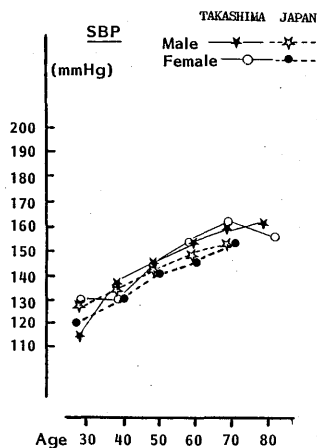


Fig. 4 Systolic Blood Pressure

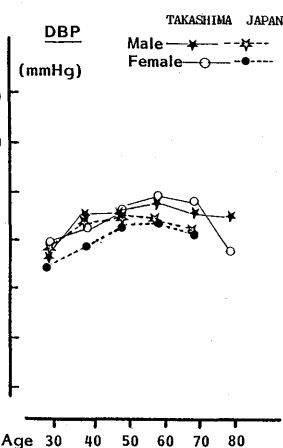


Fig. 5 Diastolic Blood Pressure

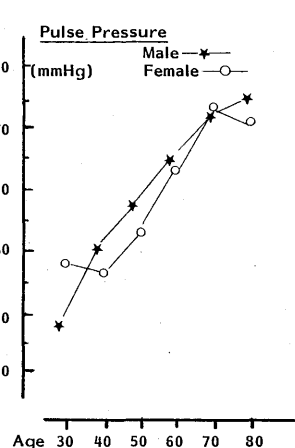


Fig. 6 Pulse Pressure

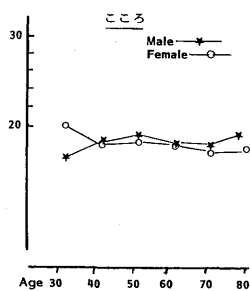


Fig. 7 Mental Index

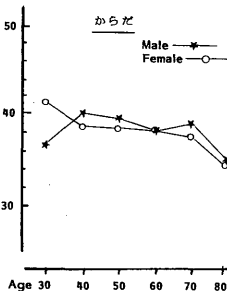


Fig. 8 Physical Index

59年度横断的な調査結果であり、必要に応じて全国平均値等³¹⁾⁴⁾⁸⁾⁹⁾も併記している。

体格は男女とも年齢変化が大きく、身長では男子30歳代168cm、80歳代152cm、女子30歳代151cm、80歳代143cmとなっている。全国平均に比すれば40歳代で男女とも4cm程度低い値となっている。

体重も同様に年齢変化が大きく若い世代が男子では15kg程度、女子では8kg程度大きい。全国平均との比較によれば男子では40歳代までは全国平均よりやや大が同等のものであり、50歳代以降やや低い値を示す。女子も全国平均に比すれば同様の結果であ

り、50歳代以降も全国平均値と同程度のものである。

つまり体格全般については身長が低く、体重が大きいという「ガッチリ」型として鷹島町の成人を代表することができ、この点は身体充実度指数が男子では30歳代24.0、80歳代21.5、女子40歳代23.8、80歳代22.3と線型な年齢変化はあったとしても小さい点にうかがうことができよう。

安静時血圧(収縮期・拡張期・脈差)のうち脈圧は年齢増加とともに大きくなっており、これは男女いずれについてもいえる点であって全国平均の年度変化とも類似している。特に注意するのは男子に比べて女子が全国平均でみた時より多少大きな値を示していることである。

「こころ」指数は年齢変化は顕著でなく、「からだ」指数は若い世代が高く古い世代で低いという結果になった。

3. 生活要因の検討

調査時には1、2で検討したようにいくつかの身体健康度の指標検査とともに各自の生活時間、生活行動、食生活などについても併行して調査した。ここでは鷹島町全体についてのこれらの比率の検討を記述的に行い、推測的に安静時血圧とこれらの要因の関係を検討した。その結果を表-12に概説的に示し、特

表-12 生活要因の度数比率

・睡眠時間	①7～8時間 33%	②6～7時間 28%	③8～9時間 20%	④6時間未満 12%	⑤その他無答 7%
・仕事時間	①7～9時間 40.2%	②9時間以上 26.8%	③5～7時間 15.8%	④5時間未満 15%	
・休日	①月4回以上 35.4%	②無休 30.5%	③月2, 3回 14.6%	④月1回 13.4%	
・家族構成	①祖父母同居 42%	②夫婦と子 28%	③夫婦のみ 19%	④その他無答 21%	
・家事の分担	①自分一人で 50%	②人にまかせる 28%	③誰かと一緒に 22%		
・仕事上の無理	①ときどきする 43.1%	②していない 41.4%	③いつもしている 15.5%		
・仕事でからだを動かす	①多い 41.5%	②かなり多い 28%	③やや少ない 15.8%	④少ない 14.7%	
・仕事中の姿勢	①動き回る 30%	②中腰 28%	③立った仕事 24%	④座った仕事 11%	⑤その他無答 8%
・仕事上の問題	①時間が長い 48%	②時間が不規則 19%	③重労働 11%	④その他無答 22%	
・最も大切なこと	①健康 61.2%	②家族のまとまり 10.7%	③収入・財産 9.3%	④仕事 6.5%	⑤その他 12.3%
・現在の生活への満足度	①かなり満足 36.5%	②満足 26.8%	③やや不満 25.5%	④不満 11.2%	

に収縮期血圧の分散分析を行った結果でこれが最も高いグループ、最も低いグループを指摘し多少の考察を行った。

i) 生活時間構造について

睡眠時間は7時間までのグループの比率が40%程度となり、仕事時間は約40%の者が7~9時間と回答している。また休日が月3回以内と答えたもの、および、ほとんど無休とするのが各30%みられた。これらの要因は収縮期血圧(以下SBP)と関係が深く、仕事時間が多く、睡眠時間が比率的に短く、休日も月あたり少ない場合にSBPが最低値を示した。無論、これは相関関係のうちでは継時的な関係で論じられるものである。日頃の運動(身体活動)にもSBPとの関係がみられ「ときたま」運動する群、および仕事、家事でからだを動かすことが「多い」群でSBPは最低値を示した。つまり活動性が高いとSBPは低いと考えられる。

ii) 家庭内の要因について

家族構成は三世代以上である場合が約40%を上め、夫婦のみが15%、夫婦と子供の構成が25%になっている。家事は自分一人で行っている者が全体の半数以上を占めている。また「仕事上の無理」をしているかという質問については「いつも」「ときどき」無理をしているというものが、全体の65%を占め、「していない」ものは35%となっているが、「していない」場合にはSBPが他群に比べて有意に高い値を示した。家族構成はSBPと関係が深く夫婦のみの場合は他群に比べてSBPは最も高い値となっている。

i), ii)を総合すれば全体として仕事時間や相当にからだを動かす仕事を一人ですることも多く、仕事中心の生活で定期的な休暇設定にも無理をしているという要約ができるのではないだろうか。かつまたSBPとの関係で無理ができない時は「他の家族」に負担をかけた生活を送らねばならない状況にもある。

iii) 仕事・作業上の要因

i), ii)と重複するが、仕事の内容は鷹島町全体でみた場合、動きまわる場合、中腰の場合、立った仕事、座った仕事など多様であり、最も問題になる点として「働く時間が長い」「時間的に不規則」などが回答されている。

これらはSBPとの関係が特に高いものは見出せない。

iv) 生活の目あてや生き甲斐について

現在の生活に満足しているかという質問について

は、満足と答えたものが26.8%、かなり満足というものが36.5%の割合であり、全体で63.3%のものが「一応満足」と現在の生活を考えている。

さらに人生で最も大切なこととして一番目にあげた項目は61.2%のものが健康、次いで家族のまとまり10.7%、収入・財産9.3%、友人・知人・親せきづき合いなど3%程度となっており、2番目に大切なことを含めて概括すると、主体的な健康が最も重視され、次いで家族内の結びつきを中心としたものが考えられる。

なお個人の健康状態を自己評価した結果では「非常に健康」「かなり健康」を合わせて63%にのぼった。

v) 食生活について

図-9は7食品群のそれぞれについて「非常によく食べる」、「かなり食べる」、「余り食べない」までの尺度で自己評価を行った結果を示したものである。これらを「よく」あるいは「かなり」食べると答えた者の比率が多いものから順に列挙していくと、「野菜」>「動物性食品」>「果物」>「甘い物」>「塩辛いもの」>「脂っこいもの」のようになる。

つまり鷹島町全体でみると、「野菜」「動物性食品」などの摂取が相対的に高く、塩辛いもの、脂っこいものは相対的に余り摂取されていないということになる。これらのうち「野菜」「動物性食品」「塩辛いもの」「脂っこいもの」はSBPとの関係が深く、動物性食品を余り食べない場合や、塩辛いものを非常によく食べる者のSBPが他の群に比べて高い値を示すことも指摘できる。

こうした連鎖的關係²⁾⁶⁾⁷⁾は単純に因果関係とすりかえられやすいが、本来は栄養学の立場からの吟味が重要であるし、特に他稿で論じられる鷹島町の栄養度診断の結果(伊藤ほか:健康科学,第8巻:103-111,1986)を重視する必要がある。

IV. ま と め

本報では鷹島町住民の基礎的な生活時間構造や生活行動を知り、また基本的な身体的状況を知る目的で40歳前後から80歳代までに及ぶ住民の健康調査と生活構造調査を行い、また二、三の身体的指標と生活諸要因との関連および地域差・年齢差について検討した。

(1) 体格では体充実度や男子の体重に地域差が認められ、また年齢変化はいずれも顕著であった。特に体充実度などで代表されるが、全体としては「ガッチリ型」の体型であるといえよう。

	非常に食べる	かなり食べる	余り食べない
動物性食品(全体)	29.3%	61.0%	9.7%
野菜類(全体)	42.7%	50.0%	7.3%
甘いもの(全体)	20.7%	42.7%	35.6%
脂っこいもの(全体)	10.9%	37.8%	51.2%
果物(全体)	23.2%	56.1%	22.0%
塩辛いもの(全体)	15%	36%	49%

図9 食品群別摂取状況

(2) 収縮期・拡張期血圧，脈圧など血圧測定値には地域差が認められ，特に漁港をもつ地区において低いという結果が得られた。年齢変化も考えられ，特に脈圧値については大きい年齢変化がみられた。また全国平均値に比較すると男女ともやや高い値となった。

(3) 休養や労働の面から生活時間と構造をみると「睡眠時間も少なく，働く時間が長くて不規則であること」などの傾向がうかがわれた。

(4) 生きがいやめあてについては，「健康」が最も重視され，次いで「家族のまとまり」「収入・財産」などが大切と考えられている。

(5) 食物については野菜や動物性食品の摂取が高

く，脂っこいものや塩辛いものなどは余り摂取されていない。脂っこいものを余り食べない群や塩辛いものを非常によく食べる群では収縮期血圧が相対的に高いという結果が得られた。

いうまでもなく，地域差・年齢差が得られた場合も，あるいは生活行動要因上の差も単一の主効果によることはまれであり，要因の系列性を中心に，多次的に健康度情報は分析する必要がある。

謝 辞

ここで報告した資料の企画から収集，分析にいたるまでには多くの方々に多大の御協力を賜った。特に鷹

島町住民課の福市泰課長, 吉田覚二男係長, 川村雅太郎主任, 井元ノブエ保健婦をはじめ, 鷹島町役場関係各位の献身的な御協力がなければ遂行は覚束なかった。記して, 深甚の謝意を表するものである。

また健康科学センターの前センター長緒方道彦教授ならびに上園慶子講師, 宇都宮弘子技官はじめスタッフの方々の御助言と御指導に感謝したい。

文 献

- 1) 池田 央: 行動科学の方法, 東大出版, 1975, pp. 99-121.
- 2) 福岡県商工会連合会(編): 商工婦人の健康調査報告書, 1983. pp. 427.
- 3) 北村元壮: 「正常値とは何か」, 日本臨床,

- 27 (3); 703-709, 1976.
- 4) 厚生省: 昭和60年版国民栄養の現状, 第一出版, 1985.
- 5) 松本寿吉ほか: 健康度診断指標の設定に関する研究 (昭和56, 57, 58年度文部省科研費研究成果報告書), 1984.
- 6) 中谷和夫: 多変量解析, 新曜社, 1978, pp. 1-6.
- 7) 西田春彦, 新 睦人: 社会調査の理論と技法 I, 川島書店, 1976, pp. 59-94.
- 8) 大谷哲夫, 杉本恒明: 「血圧・脈波」, 総合臨床, 34; 2003-2008, 1985.
- 9) 高石昌弘, 大森世都子, 菊田文夫: 「身長・体重について」, 総合臨床, 34; 1594-1598, 1985.
- 10) 吉川政巳: 「老化度, 健康度をどう測定するか」, 内科, 48 (5); 729-735, 1981.

附表 健康度質問表

問1. では「あなたの健康状態」についておたずねします。
 日常生活での健康状態について次の23項目の質問があります。
 あなたの日頃の健康状態を, そのすべての項目にお答えください。

	1.	2.	3.	
	よくある	ときどきある	ほとんどない	
1. 少し急いで歩くと, 動悸(胸がドキドキ)することがある.....	1	2	3	⑫
2. ものをかんだり, 歯をみがいたりするとき, 歯ぐきから出血することがある.....	1	2	3	⑬
3. かぜをひくことがある.....	1	2	3	⑭
4. 腹痛をおこすことがある.....	1	2	3	⑮
5. 人と話していて, 会話が聞きとれないことがある.....	1	2	3	⑯
6. 皮ふがかぶれることがある.....	1	2	3	⑰
7. 仕事が十分にできないことがある.....	1	2	3	⑱
8. 排便が不規則になることがある.....	1	2	3	⑲
9. 仕事にめまいや立ちくらむことがある.....	1	2	3	⑳
10. 人づきあいとうまくいかないことがある.....	1	2	3	㉑
11. 通常の仕事で腰が痛むことがある.....	1	2	3	㉒
12. 寝つきや目覚めがよくないことがある.....	1	2	3	㉓
13. 疲れのため, 肌のはりやつやがなくなることがある.....	1	2	3	㉔
14. 仕事に目が疲れることがある.....	1	2	3	㉕
15. いろいろなことがすぐ不安になることがある.....	1	2	3	㉖
16. ものごとに, サツとりかかれぬことがある.....	1	2	3	㉗
17. 仕事のあと, からだが何となくだるくなる.....	1	2	3	㉘
18. 通常の仕事で頭痛がすることがある.....	1	2	3	㉙
19. 営業上, 自由時間が十分にとれない.....	1	2	3	㉚
20. 仕事への意欲がわからない.....	1	2	3	㉛
21. 通常の仕事で肩や首がこる.....	1	2	3	㉜
22. 毎日の生活が充実していると感じられない.....	1	2	3	㉝
23. 通常の仕事で関節が痛む.....	1	2	3	㉞